

中国語教育学会会報

第29号(通巻54号)2010年4月11日発行

〒441-8522

愛知県豊橋市町畑町1-1 愛知大学

荒川清秀研究室内

中国語教育学会

HP <http://www.jacle.org/>

Email ch_teaching@yahoo.co.jp

郵便振替口座 00110-1-191152

=====

目次

- (1) 会長あいさつ
- (2) 新役員の紹介
- (3) 事務局移転について
- (4) 事務局からのお知らせ(会費徴収・個人情報の変更・地区研究会・情報提供について)
- (5) 2009年度新規会員(追加分)・退会者
- (6) 2010年度第8回全国大会研究発表者
- (7) 亚太地区国際汉语教学学会第二届研讨会(首尔)回執

=====

(1) 会長あいさつ 荒川清秀

中国語教育学会が生まれて8年になります。初代会長の輿水優先生、そして依藤醇先生古川裕先生を経て、4代目の会長をお引き受けすることになりました。さいわい、多くの人の理解と参加により、この会も毎年会員数を増やし、現在は500名近くにもなろうとしています。全国大会も毎年充実してきたように思います。前回愛知大学で開かれた学会では200名余りの参加者がありました。今年桜美林大学で開かれる学会では、さらに多くの方々が参加されると信じています。

しかし、本会にはまだまだ、一人前の会としては不十分な面があります。どうすれば、多くの人にとって魅力ある、充実した会になるのか、わたしなりに日頃考えていることをいくつかあげてみました。

- (1) わたしは教育と研究は相互に欠くことのできないものだと考えています。教育法そのものの研究はもちろん、教育の現場で出てきた問題を研究の対象として取り組み、その成果を再び教育の現場にもどすことができればと思っています。
- (2) 毎年の全国大会を充実したものにするにはどうすればいいか。その試みの一つとして今回から大会予稿集をつくることにしました。これによって、当日のレジメの不足、部会の間を走り回るといった手間がはぶけるだけでなく、発表者(特に院生)の経済的負担を軽減することができます。
- (3) つぎに、雑誌の質を高めるために編集委員会をたちあげたいと考えています。これまでには理事を中心に論文の査読が行われ、会長、幹事の多大な努力によって雑誌が編まれてきましたが、今後はより広く査読委員を求め、編集委員会を独立したものに

したいと考えています。査読は人を評価しているようで、実は自分が試されています。そういう機会を通じて、会全体の質が高まればと思っています。

(4) 四つ目に全国の中国語教育の実態を知ることがあります。かつて、2002年に中国語学会で『日本の中国語教育』が作られましたが、それからすでに8年の年月がたっています。今、日本の中国語教育はどのような状態にあるのか、それを調査することはわたしたちの学会に課せられた任務の一つであろうと思います。

(5) 五つ目は各地区の研究会のより一層の充実です。現在も、関東、関西、九州地区で支部例会が開かれていますが、これをより充実したものにし、会員相互の切磋琢磨の場にしたいと考えています。

(6) 本会は、古川会長の時代に、海外の学会、研究者との交流がより盛んに行われました。今後このつながりを大事にし、海外からの刺激と海外への発信を行いたいと考えています。

(7) 会員名簿の管理の委託化の実現。古川会長の時代に、郭修静幹事の尽力により、会員名簿の管理がよりシステマチックなものになりました。現在会員総数は500名弱ですが、これが今後増え続けると、個人の努力だけでは管理しきれなくなる可能性があります。こうした管理の外部委託化(アウトソーシング)も今後考えなくてはなりません。

なににせよ、この学会が学会員にとって意味のある、価値のある会にならなくてはなりません。そのためには、理事各位の協力はもちろん、多くの会員の自覚と努力が欠かせません。どうか、みなさまにはいっそうのご鞭撻とご支援をお願いいたします。

(2) 新役員の紹介

新役員については、11月に行われた選挙、並びに地域等諸条件を鑑み、以下の方々に委嘱しました。手続きとしてはつぎの総会をもって正式に決定します。(地区別)

顧問：輿水 優

会長：荒川清秀

代表理事：佐藤富士雄 郭 春貴 平井和之 三宅登之 藤井達也 山崎直樹 山田眞一

理事：鈴木慶夏 / 遠藤雅裕 大川完三郎 加藤晴子 陳 淑梅 村上公一 守屋宏則

楊 光俊 依藤 醇 / 丸尾 誠 / 日下恒夫 古川 裕 清原文代 岩本真理

胡 士雲 / 西 香織

会計監査：植村麻紀子 齋藤貴志

幹 事：塩山正純 中西千香

(3) 事務局の移転について

これまで大阪大学外国語学部に所在した学会事務局は4月から下記に移りました。

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町 1-1 愛知大学

荒川清秀研究室内 中国語教育学会

Email: ch_teaching@yahoo.co.jp (これまでと変わりません)

(4) 事務局からのお知らせ

・年会費の徴収について

2010年4月からの新規会員を含めて、2010年度の年会費5,000円を同封の振替用紙に必要事項をご記入の上、2010年7月末日までにお振り込みください。なお、事務局は移転しましたが郵便振替番号はそのまま継続されます。滞納分がある方につきましては個別に振替用紙に必要金額を記入させていただきます。できるだけ一括納入ください。できない場合は通信欄にその理由をお書きください。請求金額が合計15,000円以上で、7月末日までにお支払いがない場合は会則にしたがい除籍となります。

・住所・勤務先などの変更届について

郵便物が住所不明で事務局に戻ってくる場合があります。住所や勤務先などの変更が生じた場合には、学会事務局まで電子メールにてご連絡ください。なお、事務処理上の煩雑さを避けるため、振込用紙への記入や郵便、FAXなどでのご連絡はご遠慮ください。

・支部例会のお誘い

今年度も関東地区、関西地区、九州地区での支部例会発表者を広く募集しています。研究発表を希望される会員、あるいは講演会などを企画される場合、関東地区は平井和之氏（日本大学）、関西地区は山崎直樹氏（関西大学）、九州地区は西香織氏（北九州市立大学）までご連絡ください。各連絡先アドレスは学会ホームページ「研究会・講演会」ページからリンクされていますので、ご利用ください。

・情報提供のお願い

中国語の教育・研究にかかわる研究会やスピーチコンテストなどの催しがある時は、ぜひとも事務局にご一報ください。学会ホームページ（<http://www.jacle.org/>）において広く通知させていただきます。

(5) 2009年度 新規会員(追加分)・退会者

新規会員（追加分、敬称略）

王秀梅（大阪大谷大学・非）中野麻里子（三重大学・非）

施 念（東京外国語センター・非）王 振宇（立命館アジア太平洋大学講師）

黄 琬琦（大阪大学・院）高 芳（長崎大学・非）王 英輝（東京大学・院）

正野留加（北九州市立大学・非）佐藤洋一（明星大学・非）

退会者（敬称略）

岩佐啓子 平井勝利

(6) 2010年度第8回全国大会研究発表者

第8回大会は2010年6月5、6日（土日）の両日、桜美林大学町田キャンパスにおいて開催します。発表者は以下の方々に決定しました。今年は予稿集を作成しますので、発表者は、予稿集作成要領に基づき、期日までに提出してください。期日までに届かない場合は発表放棄と見なします。

発表者一覧

氏名	タイトル
1 藤田 昌志	「ている」と中国語表現 日本語との対照から見た考察
2 佐藤 洋一	留学支援プログラムの充実化に向けての一考察：明星大学での実践例
3 蔡 喬育	成人学習者の個別差異の視点からの成人向けの中国語教育の討論
4 丁 雷	日本学生汉语字音习得的一个特殊问题
5 趙 秀敏	中国語学習のための ID に基づくブレンディッドラーニングの開発の 試み
大河 雄一	
三石 大	
6 杉江 聡子	日中高校生の交流型学習のための中国語学習支援サイトの構築
7 胡 玉華	中国語教育における学習ストラテジーの指導について
8 劉 愛群	汉语教学中“任务(task)”的使用
9 栗原 祐美	「過」的教學語法初探
10 林 虹瑛	遠隔講義システムを用いたコミュニカティブアプローチ語学教授法 の実現と比較
林 俊成	
11 菊池 厚子	教育基本語彙表の制作に関する一考察
12 白 愛仙	社会での中国語誤用問題から
13 仇 曉芸	海外ブランド名の音声転写に使用された漢字の共起関係について
14 渡邊 奈津子	初級教科書で取り上げる“不能”の例文について
15 浅野 雅樹	類義語をどう教えるか 弁別法の使用を中心に
16 工藤 亜希子	選択外国語科目としての中国語学習に関する学生ビリーフ
17 山口 莉慧	異文化理解教育としての語学教育 インターネット流行語を教材 として
18 関 光世	大学での中国語教育における通訳トレーニングの導入について
19 山口 直人	反復疑問文と副詞の共起について 教学における理論言語学からの貢献
20 王 萌	中国語の不同意表明の仕方
21 須田美知子	《小学语文》における成語の扱い方について
22 吉田 慶子	活動重視の小学校中国語教育の試み 立命館小学校の事例を中心として
23 湯山 トミ子	e-Learning を利用した語法学習の試み 授業同期型演習問題の導入と運用効果
24 黃 琬婷	文末助詞“吧”の機能についての統合的説明
25 山根 史子	“得”動補構造に見られる「結果用法」から「程度用法」への連続性
26 王 英輝	中国語における依頼発話行為のストラテジーの多様性 日本語との比較及び中国語教育への示唆
27 田邊 鉄	ピンインの自律的な習得を促すカナの利用と学習教材の開発

亚太地区国际汉语教学学会 第二届研讨会（首尔）通知（1号）

2010年3月31日

一、会议宗旨：研讨亚太地区各国汉语教学的专业化发展方向；增进区域内的学术文化交流与合作。

二、会议主题：凭借汉语进行的跨文化交际/以汉语为工具的跨文化交际

三、征文范围：

1. 各国汉语教学中的文化教学及解决跨文化交际问题的策略；
2. 各国汉语语言要素(语音、词汇、语法等)的教学；
3. 汉外语言文化对比研究与各国汉语学习者的学习策略；
4. 各国汉语教学中汉语言文化教材的开发情况；
5. 各国汉语教学中的师资培训及教学法；

四、会议时间、地点：

时间：2010年10月16、17日(10月15日报到，10月18日离会)

地点：韩国外国语大学(Hankuk University of Foreign Studies; 韩国首尔)

五、会议组织：

主办单位： 韩国中国言语学会 韩国中国语教育学会
日本中国语教育学会 日本关西地区中国汉语教师交流协会
新加坡南洋理工大学国立教育学院亚洲语言文化学部
越南河内国家大学中国语言文化系
澳大利亚蒙纳士大学

协办单位： 外语教学与研究出版社(中国北京)

承办单位： 韩国中国言语学会 韩国中国语教育学会

联络地址： 韩国外国语大学校中国语大学

电话： 0082-16-389-4810（孟柱亿手机）

传真： 0082-2-2173-3473（孟柱亿办公室）

电子邮件： yatai1016@gmail.com/mzy99@hanmail.net

六、会议形式

1. **主题演讲：** 待定（请多提宝贵的意见！）
2. **专题讨论：** 根据论文范畴分组进行。

七、会议规模：国外学者70人左右，韩国学者30人左右。

八、会议工作语言：汉语

九、会议费用：

与会者的往返旅费及住宿费用自理。国外学者的晚餐费、10月17日旅行费由承办单位负担。

承办单位已预订饭店（学会优惠价）：暂定为Holiday Inn Hotel（假日酒店，4星级）

十、会议注册费：70,000韩元

十一、与会方法：

拟与会者请于8月15日前将回执用附件方式发给各地负责人：

新加坡：	吴英成	yengseng.goh@nie.edu.sg
越南：	阮黄英	habvn@yahoo.com
澳洲：	洪历建	lijian.hong@arts.monash.edu.au
日本：	古川裕	furukawa@lang.osaka-u.ac.jp
	胡士云	husy@jk2.so-net.ne.jp
泰国：	谭国安	mandarinthai@hotmail.com
菲律宾：	黄端铭	mail@pcerc.org
印尼：	陈玉兰	chenyulan1@gmail.com
	蔡昌杰	caichangjie@gamil.com, caichangjie163@163.com
美国：	刘乐宁	LL172@columbia.edu
韩国：	孟柱亿	yatai1016@gmail.com/mzy99@hanmail.net

十二、论文:

· 论文摘要(限 A4 纸一页;摘要上请写明作者姓名、所属单位、Email 地址等信息),请于 8 月 15 日之前将摘要的 Word 版和 PDF 版发到 yatai1016@gmail.com(信箱)。

· 论文全文:请于 9 月 15 日之前将 Word 版、PDF 版和 PPT 发到 yatai1016@gmail.com(信箱)。口头报告可以使用 PPT。

· 本次研讨会的论文集,将会后由外语教学与研究出版社(北京)编辑出版。

亚太地区国际汉语教学学会 第二届研讨会(首尔)回执

(务请于 2010 年 8 月 15 日之前,通过电子邮件寄给各地负责人)

姓 名	中文:	性 别	
	英文:	国 籍	
电 话	公:	传 真	公:
	宅:		宅:
电子邮件			
通讯地址			
现职(任职单位及职称)			
论文题目:			
预订往返时间及航班号: 抵达仁川机场的时间: 10 月 15 日___时___分 抵达仁川机场的航班号: 离开仁川机场的时间: 10 月 18 日___时___分 离开仁川机场的航班号:			